

青山学院大学大学院 文学研究科 英米文学専攻

修士論文の書き方

修士論文は、これまでに学んだ知識と研究方法の実践として書かれるものである。英米文学専攻の修士論文としてふさわしい範囲でテーマを選び、そのテーマに関連する研究論文・資料等を検討したうえで書かれなければならない。修士論文はあくまでも自分自身の主張や研究成果を発表するために書かれるもので、すでに発表された文献の引き写しや、その言い換え、もしくは継ぎ合わせに過ぎないものにならないよう十分に注意する必要がある。出典を明示せずに他人の学説や言い回しを借用し、自分のものであるかのように見せかけることは剽窃行為とみなされる。剽窃は重大な不正行為であり、評価「不可」を含む嚴重な措置の対象となる。

論文作成には分野ごとに複数の体裁があるが、ここでは基本的なことのみを示す。詳しくは、Joseph Gibaldi, *MLA Handbook for Research Papers* (Seventh Edition), *MLA Handbook* (Eighth Edition) や Joseph Trimmer, *A Guide to MLA Documentation* (Wadsworth)、ジョゼフ F. トリマー『MLA 英語論文作成ガイド』(英光社)、*Publication Manual of the American Psychological Association* (Sixth Edition)、アメリカ心理学会『APA 論文作成マニュアル(第2版)』等を参照し、指導教員にも問い合わせること。

A 論文の枚数、ページ数表示、提出部数

- 1) Introduction から結論までの本文の流さは最低 50 枚を目安とする。
- 2) Notes と参考文献の部分は、本文の必要とされている分量に数えない。
- 3) ページ数の表示は右上肩に付けること。提出部数は 3 部とする。

B 日本語の要約、提出部数

- 1) 修士論文の日本語による要約を提出すること。提出部数は教務課で確認のこと。
- 2) 用紙は A4 サイズ、横書き、40 字×35 行設定で 1 枚、1,200 字程度。タイトル、氏名の表示に続けて、要約を書くこと。
- 3) 字のフォントは 12 ポイントとする。

C 本文の用紙サイズ、行数と字数、余白、白紙ページ、製本

- 1) 用紙は A4 サイズとする。
- 2) 1 ページ 25 行、60 ストローク(全角だと 29 字分)とする。
- 3) 用紙の上下はそれぞれ 4 センチ程度の余白をおくこと。
- 4) 用紙の左右はそれぞれ 3 センチ程度の余白をおくこと。
- 5) 最終ページの後に、白紙を 1 枚はさむこと。
- 6) 論文は製本もしくは厚手の穴あきファイルに綴じて提出のこと。

D 本文・Notes・参考文献の字体の大きさ

- 1) Times、Century など、鮮明な字体とし、字のフォントは 12 ポイントとする。

E タイトル等の付け方（見本1を参照）

- 1) タイトルには、作家名・作品名、論文のテーマ名を入れること。

例 (文学系) Herman Melville as a Literary Theorist

(語学系) The Syntax and Semantics of English Prepositional Phrases

- 2) 副タイトルを付けてもよい。

例 (文学系) Herman Melville as a Literary Theorist: The Function of Narrator in

Moby-Dick

(語学系) The Syntax and Semantics of English Prepositional Phrases: With Special Reference to Spatial and Temporal Expressions

- 3) 修士論文であることの表示
- 4) 論文提出者の氏名と提出年月の表示
- 5) 字体はボールド体（太字）とし、フォントは 14 ポイントとする。
- 6) タイトルは冠詞、前置詞、等位接続詞を除き語頭を大文字(キャピタライズ)にする。

F 目次の付け方(見本2を参照)

- 1) 中央に CONTENTS もしくは TABLE OF CONTENTS と大文字で記入。フォントの大きさは 14 ポイント（太字）。
- 2) 1 行空けてから、Introduction、Chapter 1（あるいはただ、1 もしくは I）と書き、点線を付けて行右側に始まりのページを表記。章タイトルが 2 行になる場合、10 スペースをおいてから書くこと。フォントの大きさは 14 ポイントのボールド体(太字)とする。
- 3) 参考文献は、文学系は Works Cited、語学系は References と表記する。

G 書式(章、Section の配置、余白、行の字下げなど)

- 1) 各章は、前の章末の部分で（間に余白があっても）ページを変えて、新しいページから始めること。
- 2) 各章の表示の後、2 行空けてから本文を書き始めること。
- 3) 章の中に Section を置く場合、その表示の前を 1 行空けてから本文を書き始めること。
- 4) パラグラフの最初は、5 スペース空けてから書き始めること。
- 5) カンマ（,）、ピリオド（.）、セミコロン（;）、コロンの（:）、疑問符（?）、感嘆符（!）の後には、1 スペース空ける。ダッシュの前後は、スペースを空けないこと。なお、ダッシュはハイフン 2 本（--）で示す。

H 作家名、作品名、雑誌掲載の論文などの表記方法

- 1) 原則として、論じる作家名は最初に言及するとき、フルネームで書き、続けて生没年を表示のこと。2 回目以降は、姓だけでよい。

例 Herman Melville (1819-91)

Charlotte Perkins Gilman (1860-1935)

Kazuo Ishiguro (1954-)

- 2) 論じる作品名は最初に言及するとき、作品の出版年を表示のこと。単行本となっていない場合等は、その発表年を表示のこと。

例 *The Mill on the Floss* (1860), “A White Heron” (1886)

- 3) 単行本となっている長編小説、戯曲、長編詩、研究書、雑誌・新聞、映画等の題名は、イタリック体にする。

例 単行本の場合 *The Waste Land*

- 4) 短編小説、戯曲集の中の一幕物、一篇の詩の題名は、イギリス文学ではシングル・クォテーション・マークで、アメリカ文学ではダブル・クォテーション・マークで表示すること。

例 イギリス文学(1 篇の詩) ‘Ode to the West Wind’

アメリカ文学(短編小説) “The Fall of the House of Usher”

- 5) 雑誌掲載もしくは論文集に収録の論文等の題名は、すべてダブル・クォテーション・マークで表示する。

I 引用・言及等の出典表示の仕方

- 1) 文学系の場合、研究対象のテキストが1冊であれば、そのテキストのページ数のみを括弧 () に入れて表示する。
- 2) いくつかの文献・テキストを利用する場合、それらの著者のラスト・ネームと該当するページ数を括弧 () に入れて表示する。

例 One Catholic novelist once told that “Despair is the price one pays for setting oneself an impossible aim” in his *The Heart of the Matter* (Greene 50).

- 3) 同一著者の文献・テキストをいくつか利用する場合、そのタイトルの頭文字とページ数もしくはその発表年とページ数を括弧 () に入れて表示する。

注: 語学系の場合、以下の「J 引用の仕方」の例 4 の書き方が一般的である。

例 1 One Catholic novelist once told that “Despair is the price one pays for setting oneself an impossible aim” (H 50) in his *The Heart of the Matter*.

例 2 According to Chomsky, minimalist studies assume that “clauses are cyclically built up from verbal projections to temporal / inflectional projections, and higher functional projections” (1972, 70).

- 4) 出典とページ数の表示は、引用・言及が本文中の場合は引用符の後(カンマが続く場合はカンマの前)、文章の終わりであればピリオドの前に入れる。ただし、本文とは区別された長い引用の出典の表記はピリオドの後にする(以下の「J 引用の仕方」例 2、5、6を参照)。

J 引用の仕方

- 1) 短い引用(目安として、3-4 行以内の長さのもの) は引用符 (“ ”) で囲んで地の文に組み込むこと。詩・戯曲の場合は、スラッシュ (/) で改行を示す。
- 2) それ以上の長さにとたる長い引用の場合、改行のうえ、行始めを 10 スペース空けて引用文を始める。引用がパラグラフ冒頭の文章からの場合は、行頭をさらに 5 スペース空けること。どちらの場合も引用符は付けない。
- 3) すべての引用の後には、出典・ページ数、行数、幕・場を表示すること。
- 4) 引用文の一部を省略する場合はピリオドを 3 個付け、続く文章が別のセンテンスの場合は、ピリオドを 4 個付ける。
- 5) イギリス文学分野の論文の場合はシングルの引用符にすることもある。指導教授と相談のうえ、論文内で統一すること。

例 1 詩・戯曲:短い引用

When Juliet leaves, she says that “Good night, good night! Parting is such sweet sorrow, / That I shall say good night till it be morrow” (2.2.20-21).

注:文中のスラッシュは改行を示す。

例 2 詩・戯曲:長い引用

In “Hunting Pheasants in a Cornfield,” Robert Bly expressed his strange experience as follows:

What is so strange about a tree alone in an open field?
It is a willow tree. I walk around and around it.
The body is strangely torn, and cannot leave it.
At last I sit down beneath it. (1-4)

注:引用部分は、改行のうえ、10 スペース空けて始める。引用符やスラッシュは不要。

例 3 短い引用(文学系)

One Catholic novelist once told that “Despair is the price one pays for setting oneself an impossible aim. It is, one is told, the unforgivable sin, but it is a sin the corrupt or evil man never practices” in his *The Heart of the Matter* (Greene 50).

例 4 短い引用(語学系)

According to Chomsky (1972), minimalist studies assume that “clauses are cyclically built up from verbal projections to temporal / inflectional projections, and higher functional projections” (70).

注:上の例4の文中において、Chomsky (1972) とは Chomsky の 1972 年発表の論文もしくは著書を意味し、(70) はその 70 ページを意味する。1 行目の Chomsky

(1972)の代わりに、Chomsky (1972: 70)とし、3行目の(70)を削除しても良い。

例 5 長い引用:参考文献からパラグラフの途中の文章を引用し、また、引用者による中略がある場合

As Margery Fisher observes:

In the increasing number of critical surveys of the English novel. . .Conrad is the sole writer ever to be included in the safe, accepted progression from Fielding to Henry James and beyond who could, to some degree, be considered to write of adventure in the traditional sense. (Fisher 30)

But there was a gradual move away from heavy moralizing, and some notable individualistic sparks,¹ such as Edward Lear's *A Book of Nonsense*, John Ruskin's *The King of the Golden River*.

注:上の例5の文中において、(Fisher 30)とはIn the increasing numberで始まる引用の出典がFisherの論文もしくは著書の30ページであることを意味し、sparksの右肩に付けられた数字(上付き文字)の1は、Notesの通し番号を示す(Notesの付け方については、以下の「L Notesの付け方」を参照)。また、引用箇所が続くButが5スペース空けてあるのは、本文における新しいパラグラフの始まりを示す。

例 6 長い引用:参考文献からパラグラフ冒頭の文章を引用する場合、改行のうえ、行頭をさらに5スペース(合計15スペース)空ける。

As Margery Fisher observes:

Stevenson's romantic adventures were put in their place by a reviewer in the London *Daily Chronicle* who remarked that "great literature cannot be composed from narratives of perilous adventures." In the increasing number of critical surveys of the English novel. . .Conrad is the sole writer ever to be included in the safe, accepted progression from Fielding to Henry James and beyond who could, to some degree, be considered to write of adventure in the traditional sense. (Fisher 30)

But there was a gradual move away from heavy moralizing, and some notable individualistic sparks, such as Edward Lear's *A Book of Nonsense*, John Ruskin's *The King of the Golden River*.

K その他の引用・言及の出典表示

- 1) ある文献を自分でパラフレイズしたり要約したりして利用する場合、必ずその出典を明らかにすること。
- 2) インターネット上の資料を利用した場合、そのサイト名、アクセス年月日、URLの順に出典を示すこと。

L Notesの付け方

- 1) Notes は、本文に関する補足的な説明や解説、情報を提供するのに用いる。
- 2) この場合、本文の該当箇所の右上に Notes の通しナンバーを上付き文字で付ける。
上記の「J 引用の仕方」の例 5 を参照。
- 3) すべての Notes は論文末尾にまとめる。

M 参考文献の付け方(見本 3 を参照)

- 1) 参考文献に記載する著作等は、本文と Notes で引用・言及した文献やテキストのみとする。
- 2) 文学系は、用紙中央に Works Cited と表示すること。語学系は、用紙中央に References と表示すること。
- 3) 著者のラスト・ネームのアルファベット順に配列する。
- 4) 文学系は、姓、名、書名、出版地、出版社、出版年の順に記し、最後にピリオドを付ける。語学系では、姓、名(イニシャル)、出版年、書名、出版地、出版社の順に記し、最後にピリオドを付ける。数行にわたる場合、2 行目からは 5 スペースあける。

例(文学系)

Hunt, Peter. *Theory and Practice*. Oxford UP, 1999.

例(語学系)

Heim, I. and A. Kratzer. (1998). *Semantics in Generative Grammar*. Oxford: Blackwell.

- 5) 雑誌論文の場合、姓、名、論文名、雑誌名、巻数および号数、ページ数の順に示す。
語学系では、姓、名(イニシャル)の次に出版年を示す。

例(文学系)

Gerber, Frederick. "Pastoral Spaces." *Texas Studies in Literature and Language*, vol. 30, no. 2, 1980, pp. 431-60.

例(語学系)

Haiman, J. (1980). "The Iconicity of Grammar: Isomorphism and Motivation." *Language* 56, 515-540.

- 6) 論文集に収録された論文の場合、姓、名、論文名、論文集名、編者名、出版地、出版社、出版年、該当論文が収録されているページの順に示す。語学系の場合、下の例を参照し、姓、名(イニシャル)、出版年、In(編者名)(ed. ないし、編者が複数の場合は eds.)、論文集名、ページ数、出版地、出版社を記す。

例(文学系)

Berry, Wendell. "A Few Words in Favor of Edward Abbey." *Resist Much, Obey Little: Some Notes on Edward Abbey*, edited by James Hepworth and Gregory McNamee, Dream Garden Press, 1985, pp. 9-19.

例(語学系)

Ellis, R. (1994). "A theory of instructed second language acquisition." In N. C. Ellis (ed.), *Implicit and Explicit Learning of Languages*, 79-114. London: Academic Press.

- 7) 同じ著者のものが複数ある場合、姓・名のところにハイフンを 3 個とピリオドを付け、文学系では、タイトルのアルファベット順に配列する。語学系では、出版年の古い順に配列する。
- 8) 同じ著者で同一出版年の出版物を挙げる場合は、出版年(例 1991)のあとに a, b, c を付けて区別する(例 1991a, 1991b など)。
- 9) 複数の著者・執筆者・編集者の場合、最初の1人はラスト・ネーム、ファースト・ネームの順とし、2人目からはファースト・ネーム、ラスト・ネームの順とする。

例(文学系)

Anderson, Lars and Peter Trudgill. *Bad Language*. Basil Blackwell, 1990.

例(語学系)

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

- 10) 日本語の文献の場合、原題をローマ字で示した後、[]内に英語のタイトルを付ける。

例(文学系)

Shimada, Masahiko. *Suisei no Jyunin* [*Inhabitants on the Comet*]. Shinchosha, 2000.

例(語学系)

Shimada, M. (2000). *Suisei no Jyunin* [*Inhabitants on the Comet*]. Tokyo: Shinchosha.

(見本1:修士論文の表紙)

**Herman Melville as a Literary Theorist:
The Function of Narrator in *Moby-Dick***

**A Thesis
Presented to
Department of English and American Literature
Graduate School of Literature
Aoyama Gakuin University**

**In Partial Fulfillment
of the Requirements for the Degree
Master of Arts**

ミドルネームを表記する場合、
Taro Franklin Aoyama または
AOYAMA Taro Franklin や Aoyama, Taro Franklin
などとする。

AOYAMA Taro または Aoyama, Taro
などの表記も可

**Taro Aoyama
January 20XX**

(見本2:修士論文の目次)

CONTENTS

Introduction	1
Chapter 1 Sources of <i>Moby-Dick</i>	3
Chapter 2 Satire in <i>Moby-Dick</i>	13
Chapter 3 Symbolism in <i>Moby-Dick</i>	25
Chapter 4 The Narrator as an Observer	37
Chapter 5 <i>Moby-Dick</i> as a Work of Art	48
Conclusion	56
Notes	63
Works Cited (文学系の場合)	65
References (語学系の場合)	65

(見本3:文学系の参考文献)

Works Cited

- Abbey, Edward. *Abbey's Road: Take the Other*. E. P. Dutton, 1979.
- . *Desert Solitaire: A Season in the Wilderness*. Simon Schuster, 1968.
- Austin, Mary. *The Land of Little Rain*. 1903. U of New Mexico P, 1974.
- Berry, Wendell. "A Few Words in Favor of Edward Abbey." *Resist Much, Obey Little: Some Notes on Edward Abbey*, edited by James Hepworth and Gregory McNamee, Dream Garden Press, 1985, pp. 9-19.
- Buell, Lawrence. "The Thoreauvian Pilgrimage: The Structure of an American Cult." *American Literature*, vol. 61, no. 2, May 1989, pp. 175-99.
- Lyon, Thomas J., editor. *This Incomparable Land: A Guide to American Nature Writing*. Houghton Mifflin, 1989.
- Marx, Leo. *The Machine in the Garden: Technology and the Pastoral Idea in America*. Oxford UP, 1964.
- Mighetto, Lisa. "Science, Sentiment, and Anxiety: American Nature Writing at the Turn of the Century." *Pacific Historical Review*, vol. 54, no. 1, Feb. 1985, pp. 33-50. *JSTOR*, www.jstor.org/stable/3638864.

(見本3:語学系の参考文献)

References

- Chomsky, N. (1988). *Language and Problems of Knowledge: The Managua Lectures*. Cambridge, MA: MIT Press.
- . (1995). *The Minimalist Program*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Fodor, J. A. (1975). *The Language of Thought*. Cambridge, MA: Harvard UP.
- Jenkins, L. (2000). *Biolinguistics: Exploring the Biology of Language*. Cambridge: Cambridge UP.
- Newmeyer, F. J. (1992). "Iconicity and Generative Grammar." *Language* 68, 756-796.
- Pinker, S. (1994). *The Language Instinct: How the Mind Creates Language*. New York: Harper Perennial.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.